



Rocks Off

2014年/ 日本/ 92分/ デジタル/ 配給：boid
監督：安井豊作 / 出演・ピアノ演奏：灰野敬二

80年代、東京のロックシーンのひとつの拠点として多くのミュージシャンや観客から愛された法政大学の学館ホールが老朽化を理由に取り壊される、その直前に、ミュージシャン灰野敬二が、観客も入れずたったひとりでピアノ演奏を行なった。取り壊されるホールとその演奏とを交えながら、言葉ではなく音と映像のみによってそのホールの辿った歴史を想起させようとするドキュメンタリー。ちなみにその建物は、大学ではなく学生が自主管理する建物として、60年代以降の日本の学生運動の象徴のひとつでもあった。

監督の安井豊作は法政大学の学館ホールの運営に70年代末から関わり、その中で何度も灰野敬二のライブを企画し、そのライブはいつしか法政学館ホールの名物イベントとなった。ホールの最後に灰野敬二のライブを発案したのも、そんな歴史があつてのことである。当日の録音を行った小沢靖は灰野のバンド、不失者のベーシストであつたが、この録音後しばらくして病気のため亡くなった（2008年2月7日）。

予告編 https://youtu.be/PH5r3m375_A

安井豊作（やすい ほうさく）

1960 年生まれ。法政大学在学中に法政大学学館ホールにて映画の上映活動を行う「シアター・ゼロ」、そして音楽ライブの企画・運営を行う「ロックス・オフ」に参加。卒業後はアテネフランセ文化センターでの映画上映のプログラム・ディレクターとして活動する傍ら、批評活動も開始。「カイエ・デュ・シネマ・ジャパン」誌の編集員としても、編集と批評活動を行う。その後、新設された映画美学校の事務局長として、同校の講師である映画監督たちとの共同作業も始め、また、講師としても多くの学生たちを育てる。同時に同校内に「シネ晝集団」を組織し、批評紙「シネ晝」を刊行。2011 年には初の映画批評集「シネ晝炎上す」を発表した。『ロックス・オフ』は、初の監督作品である。（学生時代の 8 ミリ作品を除く）

灰野敬二（はいの けいじ）

1952 年生まれ。70 年代初期からロックやジャズ、フリーミュージックなどの幅広い音楽の領域で活動。ソロ活動の他、自身のバンド「不失者」「哀秘謡」「HEAD RUSH」「静寂」などのバンドでの活動で、日本ばかりでなく、世界中の多くの音楽愛好家、ミュージシャンの心をとらえる。アルバムはソロ、バンド名義で多数。2012 年には『ドキュメント灰野敬二』というドキュメンタリー映画も作られた。また同年には、河出書房新社より、ロングインタビューを含む初の著書『捧げる 灰野敬二の世界』も発売された。本作ではその長いキャリアの中で初めてのピアノ演奏を公開した。